

## I C T 授業実践例（農業・水産）

|                 |   |   |
|-----------------|---|---|
| 1 対象学年・人数       | 食品科学科・2年生 20名   |   |
| 2 科目・单元名        | 食品製造  | 果物加工品の活用（デコレーション実習）   |
| 3 使用した I C T 機器 | プロジェクタ, パソコン, スクリーン, デジタルカメラ  |   |
| 4 活用のねらい        | 果樹加工品のフルーツソースを活用したデコレーション実習において, 示範の手元を拡大した動画を視聴させる。また, 完成形の画像を投影することで, 生徒の理解を深める。  |   |
| 5 I C T 活用の場面   | 学習内容・活動   | I C T 活用の場面   |
|                 | 基本となるデザインの製造方法を理解する。  | 事前に撮影しておいた動画を示範として生徒に視聴させる。   |
|                 | 基本及び応用デザインを参考に独自のデザインで作品を製造する。  | 事前に撮影しておいた写真を, 生徒実習中にスライドショーで投影する。  |
| 6 I C T 活用のポイント | <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画により示範をすることで, 教師は示範ではなく説明に集中できる。また, 片付けなどが必要ないため, 実際に示範するよりも多くの事例を生徒に提示することができる。</li> <li>・製造者目線の動画を見ることで左右が反転せず, 手の動きや食品の動きが理解しやすくなる。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <span style="background-color: red; color: white; padding: 2px 5px; border: 1px solid black;">デジタル教材</span> </div> |  |
| 7 生徒の反応         | 初めて自分で自由に作品を製造したため, どのようなデザインにするか悩む生徒が多かった。事前にデザインを提示し, スライドショーでいつでも見られるようにすることで, これを参考に作品を製造する生徒が多かった。   |   |
| 8 今後の課題         | 全ての生徒が画像を見やすい場所にスクリーンを掲示することができないため, 衛生的にも実習の邪魔にならないようにスクリーンを掲示することが必要であった。   |   |